〈調査報告〉

地域社会における潜伏キリシタン関連石碑の認知状況に関する調査

――石碑のメディア性調査に向けた基礎的評価として――

仲野　純章・松浦　哲郎・岩田　歩実
石田彩夕花・赤澤　瞭介・主島　隆成

要旨：大津波災害の経験や教訓を伝える石碑は「津波伝承知メディア」と称されることがあるように，石碑はメディアの一種と捉えられることがある。しかし，メディア学の観点から，石碑が具体的にどのようなメディア性を有しているのかを詳細に調査・議論されることは多くなく，具体的な調査の方法論自体が確立されていない状況にある。本研究では，奈良県大和郡山市に存在する，キリスト教禁教政策下に行われた宗教弾圧の歴史を今に伝える石碑「浦上四番崩れ流配者記念碑」に焦点を当て，当該石碑が現代の地域社会の中でどのようなメディア性を有しているかについて評価することを最終的に目指している。今回，そうしたメディア性調査に向けた基礎的評価として，地域社会における当該石碑の認知状況を調査し，メディア性調査の方向付けに資することを目的とした。調査は，奈良県立奈良高等学校において，地域社会をテーマとした探究に取り組む科目「地域・生活の科学」を履修する第一学年生徒主体で実施し，オンライン形式のアンケート調査を通じて地域社会における当該石碑に対する認知状況の大まかな把握を試みた。その結果，当該石碑については，キリスト教徒の認知度がとりわけ高いことが示された。こうした結果から，今後，キリスト教徒に対して当該石碑のメディア性調査を優先的に行い，効率的・効果的な評価・議論に繋げる方向性とした。

1　緒　　言

キリスト教禁教政策下の幕末から明治期に行われた宗教弾圧「浦上四番崩れ」の際に長崎市浦上地区の潜伏キリシタン（以下，浦上キリシタン）が流配された地の一つ，奈良県大和郡山市には，図 1 に示す石碑「浦上四番崩れ流配者記念碑」が存在する。当該石碑は，流配中に亡くなった一部の浦上キリシタンの墓碑が雲幻寺（現：良玄禅寺）に建てられたものを起源とし，流配者子孫からの要望をも受け，1969 年に現在地のカトリック大和郡山教会内に移され，記念碑として再構築されたものである。

浦上四番崩れは，九州各地から潜伏キリシタンが集まり住んだ地である浦上地区においてなされた大規模な宗教弾圧の一つであり，1790 年の「浦上一番崩れ」，1842 年の「浦上二番崩れ」，1856 年の「浦上三番崩れ」に続く，四度目の事件である。浦上四番崩れでは，長崎奉行所が 1867 年（慶応 3 年）から浦上キリシタンに棄教を迫り，ほぼ住民全員の約 3400 人が西日本を中心に全国に流配され，拷問などで 600 人以上が死亡したとされる。現在の奈良県大和郡山市は，当時，郡山藩の施政下にあり，当地には女性や子供を含む 86 人が流配され，キリスト教禁教政策に基づいて改心を迫られた。しかし，郡山藩に預けられた浦上キリシタンからは，最終的な改心者は出ておらず，松江藩の 98.8%，広島藩の 61.0% などという改心率と比較すると全く異なる様相であった。また，改心者の多い藩では，苛烈な取り調べや改心強要がなされたこともあり，概して死亡率も高かったが（大和郡山市，2022），郡山藩



図1　浦上四番崩れ流配者記念碑（在：大和郡山市）

ではその点でも極めて低い水準であった。こうしたことから，当時の郡山藩の浦上キリシタンに対する扱いは比較的緩やかであったことが窺える。図2, 3には，浦上四番崩れにおける，主要各藩に預けられた浦上キリシタンの改心率比較と死亡率比較を示す（谷山，2020；大和郡山市，2022）。

以上のように，大和郡山市における浦上四番崩れは，キリスト教禁教政策下における宗教弾圧という教訓的な出来事であったと共に，一方では，その中で比較的寛容な姿勢をとった郡山藩の「懐の広さ」が表れた出来事でもあった。先述の浦上四番崩れ流配者記念碑は，こうした大きく二つの側面を有する大和郡山市における浦上キリシタンの歴史を今に伝える貴重な存在といえる。かつて墓碑から記念碑に再構築された趣旨をも考慮すると，現代において，当該石碑が地域社会の中でどのようなメディア性を有しているかについて評価する意義は大きい。

そもそも，石碑はメディアの一種とされることがあり，例えば，大津波災害の経験や教訓を後世に伝える石碑などは「津波伝承知メディア」と称される（佐藤・平川・奥村・今村，2017）。しかし，メディア学の観点から，石碑が具体的にどのようなメディア性を有しているのかを詳細に調査し，それに基づいて議論されることは多くない。前野は，文字の刻まれた石碑だけでなく，その写真，スケッチ，拓本などをいずれもメディアと呼んだ上で，「碑文を文字史料として認識し，テキストに書かれた情報を読むこと」に重点が置かれた研究は多くなされてきたが，「碑文の存在そのものが発する意味」という側面ではあまり注意が払われてこなかったと指摘している（前野，2001）。このように，石碑のメディア性については，それを調査するための方法論自体が確立され

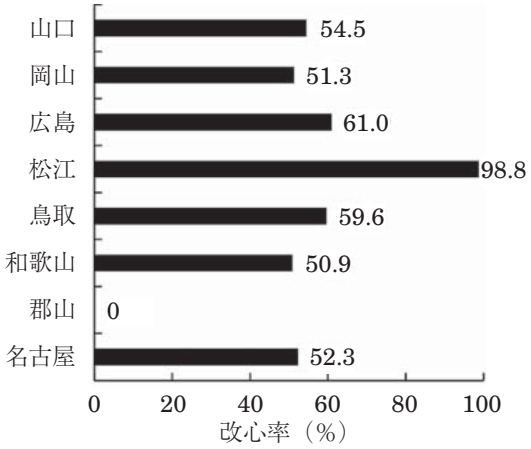


図2　浦上四番崩れにおいて主要各藩に預けられた浦上キリシタンの改心率比較

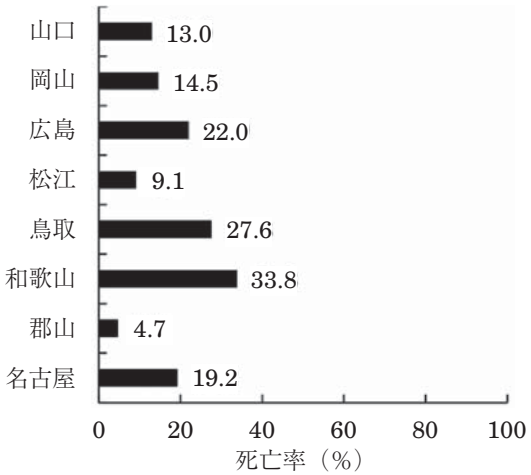


図3　浦上四番崩れにおいて主要各藩に預けられた浦上キリシタンの死亡率比較

ていない状況にある。

そこで，今回，浦上四番崩れ流配者記念碑のメディア性調査に向けた基礎的評価として，地域社会における当該石碑の認知状況を調査し，メディア性調査の方向付けに資することを目的とした。本稿では，その概要について報告する。

2　方　　法

奈良県立奈良高等学校では，独自の学校設定科目として「地域・生活の科学」が第一学年生徒全員に向けて開設されている。これは，「地域社会をテーマとした探究」にグループ単位で取り組む科目であり，これまで，自然・科学分野から歴史・文化分野に至るまでの多彩なテーマが設定され，積極的に探究活動が展開されてきた。しかし，その一方で，新規性の薄いものや調べ学習に終始するもの，内容的に稚拙なものも散見され，活動水準の底上げが課題となっていた。こうした中，「地域・生活の科学」に携わる生徒・教員双方に意識改革を促す一つのモデルケースの構築を目指して，新たな「STEAM 教育視点を意識した地域連携型の探究活動」を企画し，参画希望生徒を募った上で教育実践を進めた（仲野，2022；仲野・米田・上椙・松浦，2023）。今回の調査は，こうして形成された生徒グループ（構成：女子 2 人，男子 2 人）が主体となって実施した多面的調査の一部としてなされたものである。ここでは，調査の背景，目的，回答方法，回答期日，及び問合せ先を記した A 4 版用紙（以下，調査用紙）を配布する形で調査を行った。また，質問項目の提示とそれへの回答はオンライン上の専用フォーム（以下，調査フォーム）を通じてできるようにし，調査用紙に調査フォームの URL を QR コードで示した。具体的な質問項目や配布方法は，後述の通りである。

2.1　質問項目

以下の質問項目（1）～（5）を通じて，地域社会における浦上四番崩れ流配者記念碑に対する認知状況の大まかな把握を試みた。

（1）浦上四番崩れ流配者記念碑から居住地までの距離
（2）キリスト教徒か
（3）浦上四番崩れ流配者記念碑を知っているか
（4）浦上四番崩れ流配者記念碑を直接見たことがあるか
（5）浦上四番崩れ流配者記念碑を知っている場合，何を通して知ったか（「直接見た」以外）

ここで，質問項目（1）に関しては，地図上に当該石碑を中心とする異なる半径の同心円を複数描画し，回答者の居住地がどの区分に属するかを選択できる形式とした。このとき設定した回答用選択肢は，当該石碑から 0.1, 0.2, 0.3, 0.5, 1.0 km 圏内の 5 種類（いずれも大和郡山市内）に加え，1.0 km 圏外の大和郡山市内，大和郡山市外の奈良県内，奈良県外の合計 8 種類とした。また，質問項目（3）については，当該石碑の写真を示した上で問うた。質問項目（5）に関しては，考えられる候補の選択肢をあらかじめ複数用意すると共に，該当の選択肢がない場合に記述回答できる選択肢をも用意し，複数選択で回答を求めた。

2.2　配布方法

以下 3 通りの方法で調査用紙を配布した。まず，奈良県立奈良高等学校（奈良市朱雀）に所属する全生徒 1094 人に対し，2022 年 12 月 14 日に配布した。これは，奈良県内の幅広い地区に居住している生徒が属している当該校の特性を考慮してのことである。なお，調査用紙には，家族や知人など，身近な関係者にも回答の協力を呼びかける文言を付記し，居住地の面だけでなく，年齢的な面でも極力多様な回答者からの回答を期待した。また，2022 年 12 月 7 日，大和郡山市の中心部に位置する近鉄郡山駅（大和郡山市南郡山町）においても調査用紙を無作為に配布した。更に，カトリック大和郡山教会にも 2022 年 12 月 7 日に調査用紙を渡し，可能な限りの調査協力を求めた。

なお，いずれの配布方法においても，回答期限は 2022 年 12 月 18 日 17 時までとした。

3　結果と考察

質問項目（1）～（5）を通じて得られた結果の特徴について，以下の各観点から述べる。

3.1　回答者の居住地分布とキリスト教信仰状況

回答期間に 204 人から回答を得た（有効回答数：204）。表 1 には，回答者の居住地分布を示す。表 1 に示すように，回答者の大半は浦上四番崩れ流配者記念碑から比較的離れた場所に居住していた。

一方，回答者のキリスト教信仰状況としては，キリスト教徒である者が 57 人，キリスト教徒でない者が 147 人という内訳であり，キリスト教徒率は 27.9% であった。

表 1　回答者の居住地分布（n＝204）

居住地	内訳, %
浦上四番崩れ流配者記念碑から0.1 km圏内	0.5
浦上四番崩れ流配者記念碑から0.2 km圏内	0.5
浦上四番崩れ流配者記念碑から0.3 km圏内	0.5
浦上四番崩れ流配者記念碑から0.5 km圏内	0.5
浦上四番崩れ流配者記念碑から1.0 km圏内	2.5
大和郡山市内（上記圏外）	7.8
奈良県内（大和郡山市外）	84.8
奈良県外	2.9

3.2　回答者の認知状況

図 4 に浦上四番崩れ流配者記念碑を知っているか否かに関する回答状況を示す。当該石碑を知っているとする回答者は 30.4%（62 人）に留まるものの，その大半はキリスト教徒であり，83.9%（52 人）に上る。一方，当該石碑を知らないとする回答者は 69.6%（142 人）に上るものの，このうちキリスト教徒は非常に少なく，3.5%（5 人）に過ぎない。こうした結果から，キリスト教徒には当該石碑の存在が広く知られている実態が明らかとなった。

図 5 に浦上四番崩れ流配者記念碑を直接見たことがあるか否かに関する回答状況を示す。当該石碑を見たことがあるとする回答者は 27.5%（56 人）に留まるものの，その大半はやはりキリスト教徒であり，87.5%（49 人）に上る。一方，当該

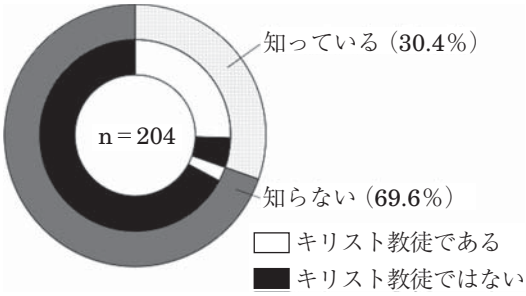


図 4　浦上四番崩れ流配者記念碑を知っているか否かに関する回答状況

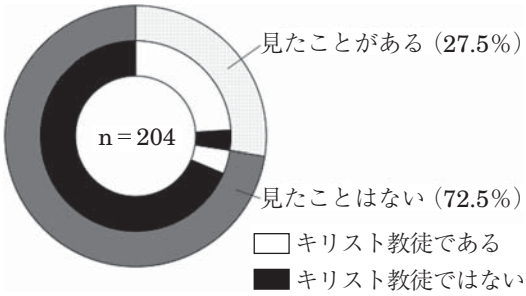


図 5　浦上四番崩れ流配者記念碑を直接見たことがあるか否かに関する回答状況

石碑を見たことがないとする回答者は 72.5%（148 人）に上るものの，このうちキリスト教徒はやはり非常に少なく，5.4%（8 人）に過ぎない。こうした結果から，キリスト教徒においては，多くの者が当該石碑の存在を知っているだけでなく，直接目にした経験を有しているということが明らかとなった。

なお，浦上四番崩れ流配者記念碑を知っている場合に何を通して知ったかについては，「直接見た」以外では大きく人的媒体と非人的媒体に分類され，このうち，人的媒体では，「知り合いから聞いた」「家族から聞いた」などが挙げられた。一方，非人的媒体では，「Google map」「インターネット上の関連サイト」などといったデジタル媒体や「新聞」「書籍」「大和郡山市観光協会発行の市内観光地図」などといった紙媒体が挙げられた。

4　メディア性調査の方向性

今回，浦上四番崩れ流配者記念碑について，キリスト教徒の認知度がとりわけ高いことが示され

た。メディア性調査の方法論が確立されていない中，今後，こうしたキリスト教徒に対して優先的にメディア性調査を試みることで，効率的・効果的な評価・議論が期待される。ただし，メディア性調査における調査項目については，今後，十分な検討が必要である。

5　結言と今後の課題

今回，奈良県大和郡山市にある石碑「浦上四番崩れ流配者記念碑」に焦点を当て，当該石碑が地域社会の中でどのようなメディア性を有しているかを調査していくための基礎的評価として，地域社会における当該石碑の認知状況を調査した。その結果，当該石碑については，キリスト教徒の認知度がとりわけ高いことが示された。こうした結果から，今後，キリスト教徒に対して当該石碑のメディア性調査を優先的に行い，効率的・効果的な評価・議論に繋げる方向性とした。なお，具体的にどのような調査項目を準備してメディア性調査を実施するかについての検討は，今後の課題である。

謝辞

大和郡山市役所，大和郡山市観光協会，カトリック大和郡山教会には，本調査に対して多大なるご協力を頂いた。ここに記して，感謝の意を表する。

参考文献

前野弘志（2001）「古代ギリシア語碑文研究のメディア」『西洋史学報』第 28 号，94-101.

仲野純章（2022）「地域に潜む技術シーズを絡めた探究活動－「浦上四番崩れ流配者記念碑」に対する多面的調査の企画－」『日本理科教育学会近畿支部大会（大阪大会）発表論文集』27.

仲野純章・米田敬司・上椙英之・松浦哲郎（2023）「STEAM 教育視点を意識した地域連携型の探究活動－浦上四番崩れ流配者記念碑を題材とした多面的調査の教育実践－」『奈良高等学校実践論集』第 1 号，3-8.

佐藤翔輔・平川雄太・奥村誠・今村文彦（2017）「津波伝承知メディアによる人的被害低減効果の統計的分析－東日本大震災で被災した岩手県・宮城県における津波碑と津波由来地名に着目して－」『土木学会論文集 B 2（海岸工学）』第 73 巻，第 2 号，I_1525-I_1530.

谷山正道（2020）「浦上キリシタンの配流と郡山」『奈良県立同和問題関係史料センター研究紀要』第 24 号，1-32.

大和郡山市（2022）「浦上キリシタンの配流」『平和のシンボル，金魚が泳ぐ城下町：郡山の歴史と文化』277-283.